



埼玉親善大使レポート

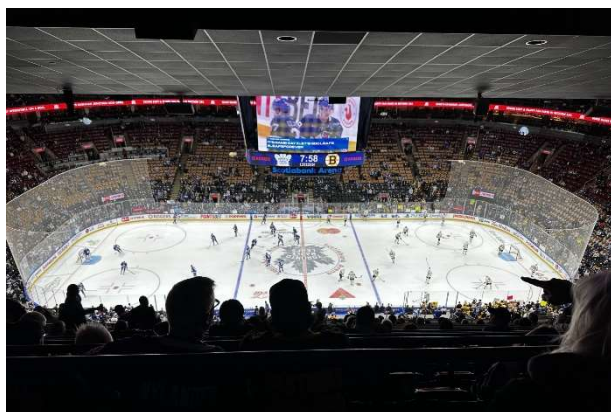
氏名：2023 年度奨学生 出川真帆
留学先：カナダトロント

◇ はじめに

改めましてこの度は埼玉親善大使にお選びいただきまして、心より御礼申し上げます。私は在学中の大学院を1年間休学し、2023年9月末から約1年間、カナダのトロントに留学しました。この修学レポートを通じて、トロントでの自身の学びや経験、生活状況、また埼玉県をPRした事柄などについて紹介できればと思います。

◇ 留学先紹介

私が留学したカナダのトロントはオンタリオ州の州都で、カナダ最大の都市として知られています。カナダ経済の中心地であることに加え、世界で最も早く多文化主義を採用した国でもあり、「サラダボウル」とも表現されるほど、有数の多民族社会です。街を歩いていたり、電車やバスなどの公共交通機関を使用していると、常に異なる言葉や文化を持つ人々と触れ合うことが出来るため、毎日新鮮な出会いや学びをすることが出来ました。



※左の写真はトロントを本拠地としているアイスホッケーチームの Maple Leafs の試合を観戦した時の写真です。右の写真は Casa Roma という、トロントにあるお城のような豪華邸宅の中を見学した時の写真です。

◇ 現地での勉強について

私は日本で通っている大学院で、多様な文化的背景や経験を持つ移民のための言語教育について研究を行っています。特に移民への教育政策に力が入れているトロントに焦点を当て、どのような教育実践が行われているのか、現地調査を行いたいという強い思いがあり、今回の留学に一步踏み出しました。現地では語学学校とカレッジに通った他、日本語学校で現地の人々に日本語や日本の文化について教えるアシスタントティーチャーをしていました。特にカレッジでは、TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages の略語) プログラムという、英語を母語としない方への英語教授法や ESL (English as a Second Language の略語) 教師に求められる資質について学ぶコースを専攻していました。このコースの受講では授業観察や実習等も含まれていたため、実際にどのような教育実践が行われているのかを肌で感じることができたことに加え、日本との教育実践の違いや考え方の違いを学び、留学前よりも広い視野で言語教育を捉えることが出来るようになったと感じています。また現場で働く ESL 教師の方々へのインタビューを通じて、単に英語という言葉だけではなく、どのように非ネイティブの人々の文化や言語を尊重しながら英語を教えるのかという点、また教員も生徒も、多文化に関する視野を広げ、洞察を深めていくような、多文化教育の側面を ESL 教育が兼ねそろえているという点を学び、今後の日本の英語教育や日本語教育についての重要な示唆が得られたと思っています。



※左が頂いた TESOL プログラム修了証書です。右の写真はトロント大学が提供する図書館の一つである Thomas Fisher Rare Library で、希少な本が保管されています。私は勉強の合間に訪れていました。

◇ 現地での生活文や文化について

現地ではホームステイとシェアハウスを経験しました。特に受け入れてくれたホストファミリーはフィリピン系の家庭だったのですが、私の他に台湾やメキシコの留学生もいたため、常に多文化な状況で英語を学ぶことが出来た他、各国の料理と一緒に作って食べてみたりと、今振り返っても非常に楽しく、また貴重な経験をする事が出来たと実感しています。

また私は勉学の他に日本食料理屋、また地元の小さなカナダ料理レストランでアルバイトをしていたのですが、労働環境はもちろんのこと、アルバイト探しの段階から大きなカルチャーショックを経験する事にもなりました。その理由として、年齢や性別、顔写真などは載せず、職歴や学歴のみを記載するシンプルかつ自由度の高いレジュメの作り方、また気になったアルバイト候補先にオンラインで応募したり直接お店等にドロップオフしたりする方法もありますが、それではなかなか職は獲得できないことが多く、むしろ友人等の紹介ですぐにお仕事を獲得することも多々あったためです。私は一つのお仕事を獲得するために何十枚もレジュメを用意して日々歩き回っていたために当時は大変でしたが、今となっては根気強さを培うことが出来た良い経験になったと思っています。特に日本食料理屋でのアルバイトは、お寿司や天ぷらなど日本人にとっては非常に馴染みのある料理が現地の人々にとってはそうでない場合もあったため、どのように日本食の味や魅力を英語で伝え、楽しんでもらうか、苦戦しながらも分かりやすく熱心に伝える事が出来たと思っています。日本人であるからこそ、日本食や日本人としてのおもてなしを重視したサービスに自信と誇りを持ちながら働くことが出来ました。



※私自身が働いていた日本食料理屋の写真です。ここではお寿司や天ぷら、多様な前

菜などの通常メニューの他、ベジタリアンの方々向けのメニューも豊富に用意していました。

◇ 埼玉県をPRした事柄について

現地で生活している中で何度も経験したことが、周りの友人に「日本のどこ出身なの？」と聞かれ「埼玉県という場所だよ」と返答しても、分かる方が少なく、「東京の近くにある」と説明してようやく理解してもらっていたことです。日本に関心があっても、埼玉県について知っている方が多くはなかったというのが実情でした。こうした実情を踏まえ、私は自身がアシスタントティーチャーをしていた日本語学校、また前述した日本食料理屋にて埼玉県をPRしていました。特に学校では日本文化に強い関心を持っていた生徒さんが非常に多かったことから、川越や秩父の美しい自然、またクレヨンしんちゃんの地元である春日部市について紹介したことに加え、大々的には着目される機会は多くないものの、実は量的にも質的にも非常に充実している埼玉の温泉について紹介していました。この話は日本食料理屋でのお客様との会話でも伝えていました、特に温泉については、温泉そのものに入った事が無いという方も多かったため、埼玉には特定のエリアだけではなく、あらゆる地域に 100 を超える温泉施設が設置されていること、なかでもしゅわしゅわした炭酸泉が楽しめる竜泉寺の湯やかけ流しの温泉、岩盤浴施設が充実している花湯スパリゾート等があり、好みの泉質や施設の雰囲気に合わせて気軽に足を運ぶことが出来ると宣伝していました。その他には自身が日本から持ってきた狭山茶をルームメイトに味わってもらったりしたこともありましたが、総じて自身が想定していたよりも日本に強い関心を持っている方が多いこと、そして埼玉について今は知らなくても、PR したことで「日本に旅行したときに是非とも行ってみたい」という声を頂けたことが、自分にとって非常に嬉しく、さらに埼玉の魅力を伝えたいと感じた経験になりました。

◇ おわりに

誰でも個々が持つ文化や多様性を大切に、ありのままの自分で生活することが出来る、そんなトロントでの生活が非常に快適であったとともに、自分に自信や勇気を与えてくれる、そんな留学生活でした。非常に多様な文化が入り混じるトロントに留学したからこそ、他の国や地域の文化について寛容な異文化理解の姿勢を持つことが出来るようになったことに加え、自身の「日本人」としてのアイデンティティが強まり、日本の文化により強い誇りを持つようになりました。そして埼玉親善大使に任命していただいた事で、埼玉県の魅力を改めて俯瞰的にみることができ、それを海外の人にどのように伝えて興味を持っ

てもらうのか、試行錯誤出来た貴重な経験になりました。留学を通じて得られた学びや経験を糧に、これからも成長し続けたいと思います。

改めてこの度は留学を支援してくださり、ありがとうございました。